



2007.3.12
第132号

学び・育ちの「個人カルテ」



会津教育事務所
業務次長 小野 俊夫

平成十八年の五月から七月まで、所長と共に会津域内の全小・中学校百二十一校、高校十八校を訪問させていただいた。そのねらいの柱は、幼・小・中・高の連携であった。

特に印象深かったのは高校訪問で、どの校長先生からも、自校の特色を生かした学校経営、生徒一人一人の将来を考えた学校経営に対する強い信念を感じることができた。今後、学ばなければならぬことである。

しかし、誤解を恐れず言えば、小中各学校の取組みは、一人一人の子の学びや育ちにまでは、大半が至っていないというのが現状であった。「うちの学校の五年生の平均点は…」 「うちの学校は生徒指導が大変で学力向上は…」 そんな声が聞こえたこともあった。一人一人の学力や生徒指導上のデータはあるものの、詳しく分析しておらず、教師の漠然とした子どもの認識のみで、「平均」ということが先行しているように感じられた。

医者は「個人カルテ」を診ながら、個人の身体を守り続ける。学校でも、子どもの学びや育ちの情報を分析した「個人カルテ」が必要であると思う。子ども一人一人の「個人カルテ」が無ければ、育ちや学びをつなぐことができない。まして「なぜ勉強しなければならぬ」という単純な問いの中にある子どもの夢をつなぐこともできない。

子どもの学びや育ちは様々である。人間は変化するものである。教師は固定観念を持たず、十分な寛容さを持って、幼・小・中・高と子どもの成長記録である「個人カルテ」をつないでいく必要がある。そのことは、教師が親の目を持つことであり、子どもの将来の夢の実現を、見守り続けることにつながるであろう。

最近、ある学校を訪問した際、校長先生から「生徒指導は、最終的に学習指導です。」という声を聞いた。大変嬉しかった。教師が子どもの学びと育ちをつなぐために、本気になって教科の本質に迫る授業に取り組まなければならぬと思った。

私たちが、子ども一人一人の学びと育ちを大事にした指導・管理行政をしなければならぬと、当たり前前に気付かされた学校訪問であった。

編集
福島県教育庁
会津教育事務所
編集協力
小・中学校長会
発行
福島県市町村
教育委員会
連絡協議会
北耶麻沼

各種受賞紹介

敬称省略

- 文部科学大臣表彰
 - ・地方教育行政功労者
元熱湯加納村教育委員会教育長 小林 正守
 - ・優秀教員
会津若松市立鶴城小学校教諭 鈴木 基之
 - ・地域文化功労者
会津美術協会会長 角田 弘司
 - ・生涯スポーツ優良団体
会津若松柔道会
猪苗代スキークラブ
 - ・体育指導委員功労者
元県体育指導委員連絡協議会監事 長谷川正市
- ・学校保健及び学校安全表彰
北塩原村立東郷中学校
- (財)伝統文化活性化国民協会表彰
 - ・地域伝統文化功労者・団体 河東町空也光陵会
- 県文化振興基金顕彰
会津書作家協会
会山町山入近隣会
西会津町文化財調査委員会委員長 根本 一
- 県教育委員会表彰
 - ・学校教育功労者
会津若松市立鶴城小学校校長 星 幸雄
会津若松市立第一中学校校長 栗村 謙一
 - ・芸術・文化財保護功労者
会津美術協会副会長 渡辺 正夫

- ・社会教育功績顕著な団体・施設
喜多方市立熊倉小学校父母と教師の会
会津若松市鶴城婦人会
柳津町青年団体連絡協議会
- ・保健体育功労者
福島県ソフトボール協会副会長 渡邊 光治
- ・保健体育功績顕著な団体・施設
会津若松市立湊小学校
・へき地教育功績顕著な団体
柳津町立西山中学校
- 県教育・文化関係表彰
 - ・特別功績者・児童生徒(団体)の部
会津若松市立第五中学校 打楽器六重奏
 - ・優秀教職員の部
喜多方市立会北中学校主任栄貴技師 坂内 幸子
会津坂下町立第一中学校教諭 古川 真弓
- 県学校給食優良団体・功労者表彰
大戸地区学校給食センター
- 県学校歯科保健優良校表彰
 - ・栄誉賞
喜多方市立山都第二小学校
 - ・最優秀賞
三島町立三島小学校
 - ・優秀賞
会津若松市立河東第三小学校
喜多方市立第一小学校

- 喜多方市立姥堂小学校
北塩原村立北山小学校
喜多方市立第一中学校
喜多方市立高郷中学校
- 県学校保健安全優良学校・功労者表彰
 - ・学校保健優良校
会津若松市立河東第三小学校
会津坂下町立川西小学校
会津坂下町立八幡小学校
喜多方市立松山小学校
 - ・学校保健功労者
猪苗代町立猪苗代小学校学校医 浅見 孝雄
県立会津農林高等学校学校医 佐藤 悦明
喜多方市立塩川中学校看護教諭 宮城 悠子
- 県教職員研究論文入賞者
 - ・特選
喜多方市立松山小学校教諭 菅野 望
- 県学校関係緑化コンクール表彰
(学校林等活動の部)
 - ・県林業協会会長賞
喜多方市立高郷第二小学校
 - ・県緑化推進委員会会長賞
会津若松市立湊小学校
(学校環境緑化の部)
 - ・関東森林管理局賞
会津美里町立永井野小学校
 - ・県林業協会会長賞
会津若松市立川南小学校
喜多方市立山都第二小学校

研究実践校の取組み紹介

「望ましい習熟度別学習のあり方」

会津若松市立行仁小学校

文部科学省より学力向上拠点形成事業の指定を受け、「望ましい習熟度別学習のあり方」について以下のような実践研究に取り組んでいます。

(1) 習熟度に応じた学習課題

コースごとに問題の質を変えて取り組んだ結果、均質な集団の中で力を発揮し、児童なりの発見をし、満足感・成就感を感じながら学習に取り組むことができるようになった。

(2) 習熟度ごとの課題解決

どのコースも自力解決を基本としながら、問題の程度に応じて教師と一緒に解法を明らかにするように取り組んだ結果、学習内容の理解が円滑に行われるようになった。

(3) 習熟度別学習の成果

習熟度別学習の導入で、学級単位での一斉授業でありがちな、理解の早い児童を中心とした授業や、課題を早く終えた児童を待たせてしまう授業がなくなった。また、余裕のある児童にはより高度かつ多数の問題に取り組ませる時

間を、理解に時間がかかる児童には理解できるまででいいに指導する時間を確保でき、児童にとって満足度の高い授業展開ができた。

(4) 話し合う力の育成

解決の段階に、ペア学習・グループ学習・自由交流などの時間を設定した結果、友達と話し合う中で、自分の考えを整理したり、友達の考えの良さに気づいたりできた。また、説明の練習にもなり、全体の話し合いの中でも自信を持って発表することができた。



研究実践校の取組み紹介

「心づくり・体づくり・生活づくり」

会津若松市立荒館小学校

本校は、平成16年度から3年間「心の健康教育実践モデル校」として県教育委員会より指定を受け、研究を進めてきた。教育目標の具現化と、ヘルスプロモーションの理念に基づき、豊かな心を育み健康で生き生きとした生活ができる子どもの育成をめざし取り組んだ。心の健康づくりを図る視点として、右の3つの視点に沿って研究を推進してきた。また、研究推進の基盤として、友達とのあたたかい関わり方やコミュニケーション能力の育成を大切にしてきた。



(1) 「心づくり」の視点での実践

道徳の授業に力を入れたことで、思いやりの心情が育成された。また、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れたことで、コミュニケーション能力が育成された。

(2) 「体づくり」の視点での実践

業間活動（さわやかマラソン・のびのび体操）を充実させた結果、異学年との交流も深まり体力向上につながった。

(3) 「生活づくり」の視点での実践

全児童に対して学校生活への満足度を測るQ-Uアンケートを実施したことにより、集団の中での状況を把握でき、個別指導に生かすことができた。また、食と健康に関するアンケートやPTA事業での料理作り、外部講師による子育て講演会などを実施した結果、子ども・保護者・教職員すべてが体と心の健康の重要性について気付くことができた。

心の健康教育の重要性は、誰もが認めるものである。今後も、3年間の研究実践を大切にしながら心豊かな荒館の子どもを育成していきたい。

学校教育相談 事業より

「個々の連携から有機的連携へ」

「児童生徒にとって、楽しく充実した学校生活であってほしい」と親も教師も切に願っています。

ところが、不登校、学校生活不適応、非行や問題行動、家庭内の諸問題、身体・精神不安など実に様々な問題から「楽しい学校生活」ができない子どもたちが多いことに心が痛みます。

学校訪問させていただくと、悩み苦しむ児童生徒に対して、全校体制で問題解決に向けた取組みに努力されている様子が伝わってきます。しかし、これといった特効薬が見当たらず、なかなか改善の兆しが見えてこないことに苦慮されていることも多いようです。

そんな中、今年度すばらしい取組みが見られま

したので紹介したいと思います。

北会津地区T小学校の『M支援ネットワーク会議』の立ち上げです。

連携を図りたい関係機関・団体の代表者の参加によるネットワーク会議で、課題解決に向けた対策が練られ、実行に移されました。

- ・一人の児童の健全な成長を願い、多くの機関や団体が連携していること
- ・即実行で、しかも個々の連携では叶わない改善効果があること

等からすばらしい実践であり、今後、他の市町村への広がりを期待したいものです。

学校教育相談員 岩橋紀男

地域に 学ぶ

『我が村の戊辰戦争』

昭和村教育委員会

遡ること今から138年前、慶応4年9月22日午前10時、会津鶴ヶ城北出丸の北追手前に立てられた「降参」という二文字を墨書した白旗が会津戊辰戦争の終焉である。この戊辰戦争が我が昭和村に大きな爪痕を残し、深く歴史を刻んでいる。

会津軍を率い、凄絶な抜刀斬り込みで官軍を震え上がらせた佐川官兵衛は、まだ負けたとは思っていなかった。開城式当日の22日、越後から東進してきた官軍の若松進出をはばもうと、朱雀三番士隊の残兵25、進撃隊の残兵50余を田島から昭和村喰丸、両原、大芦、小中津川方面に放ったのである。大芦の守備は、加賀藩・高崎藩を主とする約600人。24日晩闇、大芦の官軍宿舎を急襲したゲリラ隊は、20余人をたちどころに屠って、残りを小中津川方面に潰走させる。官軍側は、会津藩の抵抗が終わったと思っていたから、虚をつかれて逃げ惑うしかなかったのである。その後、陣を立て直し新たに攻撃をかけ、矢ノ原での小戦闘の後、会津藩は引揚げたのである。

この「大芦の戦」によって、大芦は、29軒焼失し、村民にも多数の死傷者を出した。この日、野尻から喰丸にかけての村々は大騒動で、家を片付けて山の方へ逃げる者もあれば、官軍の炊き出しに駆り出される者も多く、前古未曾有の騒動の日であったのである。

現在も、史跡として矢ノ原湿原には会津藩野村新平の墓、大芦集落には官軍加州藩9人之墓、小矢ノ原にも会津藩士戦死者2人の墓がある。また、官軍の道案内人として徴用され、矢ノ原で殉職した大芦の佐藤音之助の墓も、手厚く村民に見守られている。

このような戦いに死んでいった者もいることを、後世に伝えるのも大事なことである。



地域教育相談 推進事業より

平成19年度は、特別支援教育元年！

学校教育法が改正され、第75条第1項で、「各幼稚園、小中学校、高等学校等においては、教育上特別の支援を必要とする児童、生徒及び幼児に対し、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うものとする」と明確に規定しました。(平成19年4月1日より施行)

また、国でも、特別支援教育支援員の配置に必要な経費への地方財政措置を予定しています。

平成19年度は、まさに、「特別支援教育元年」。

子どもたちへの具体的な支援により、これまで以上に、一人一人の自己実現をめざした教育の推進が求められているのではないのでしょうか。

なお、地域教育相談推進事業では、発達障がい等の障がいに応じてベテランの巡回相談員を派遣し、保護者や各学校の相談に応じています。お気軽にご相談ください。

☎ 0120-899-714

私の抱負

「顔」の話はしたくないが……



会津美里町立
赤沢小学校
校長 青山 邦夫

私は昔から、「先生は本
当に困ってんだかどうか、よ
く分かんない顔をしている。」
と言われ、誉められているん
だか馬鹿にされているんだか
判断がつかなかった。ただ、
今、新任校長としてこの一
年近くを振り返ると、職員
に「動揺」や「迷い」を悟
られにくい顔に生まれてきて
良かったと親に感謝してい
る。校長が「どうすっぺ？」
とか「大変だ！」なんて口
に出したり、顔に出たりし
たらそれこそ職員や子どもた
ちに大きな不安を与えてし
まう。

「温かさ」



昭和村立
昭和中学校
教頭 押部 秀隆

新任教頭として、自然豊
かな「からむし織の里」で
知られる、全校生十七名の
本校に赴任して、早一年が
過ぎようとしています。

四月当初は、文書の整理
もままならず目の前の仕事
に追われ、右往左往の毎日
でしたが、そのような中でも
「人の温かさ」を噛みしめる
ことが出来ました。素直で
目をキラキラ輝かせ挨拶す
る生徒たち。文化祭や雪囲
いなどの学校行事に惜しみ
ない協力や支援をしてくだ
さる保護者や地域の方々。
さらに、校長先生や先生方
など様々な方に助けて頂き、
日々周囲の温かさを感じな
がら仕事を進めることが出
来ました。

心豊かな生き生きとした
子どもたちを育てるためには
地域や家庭と連携をし、保
護者の願いや想いを受け止
めて、温かい環境を先生方
と共に創ることを使命と感
じ、日々の職務に励んで参
りたいと思います。

「一年を振り返って」



猪苗代町立
猪苗代小学校
教諭 國分 康裕

十二月十二日、今年の漢
字が「命」に決まりました。
その翌日、子どもたちにそ
れぞれの一年を漢字で聞い
てみました。笑顔で過こせ
た子「笑」、スポ少から学ん
だ子「絆」など。

私自身の今年の漢字は
「初」です。初めての教員生
活、初めての一人暮らし、
初めての会津。あっとい
う間の一年間でした。そんな
なかでも、多くの研修を通
して、「教員としての大切な
ことは何か」を様々な視点
から教えていただきました。

今年度学んだことを心に留
め、子どもたちのために頑
張っていききたいと思えます。

最後に、来年の漢字が、
「伸」になれるように、子ど
もを伸ばし、自分自身を伸
ばしていきたいです。

作品と指導

工作



会津美里町立本郷第二小学校
6年 益戸 愛海

最終学年なので6年間の思い
出を表現する一つの場として取
り組みました。

平面の紙を丸めたりねじった
りはさみで切ったり、ちぎったり
して、つるや草、建物などを立
体的に表現するおもしろさを目
指しました。

指導者 齋藤 勝美

絵画



「読書に親しもう」
喜多方市立第三中学校
2年 齋藤 日和

資料集や、生徒の持参資料を
もとに構想を練りました。文字は、
レタリングすることや、配色を工
夫すること、平塗りで丁寧に彩
色することなどに気を付けて制作
しました。1年生での既習事項を
生かして仕上げることができました。

指導者 五島 尚子

書写



「無限の可能性」
会津若松市立第三中学校
3年 澤井 沙知

文字の大きさ・位置、余白の
大きさを意識して書いているの
で、全体の調和がよくなってい
ます。また、行書ならではの、
点画の連続に気を付けているこ
とからも、三年生にふさわしい
作品に仕上がっています。

指導者 小野 正代